



平成30年度 東京都小学校体育研究会

夏季合同研究会

研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成

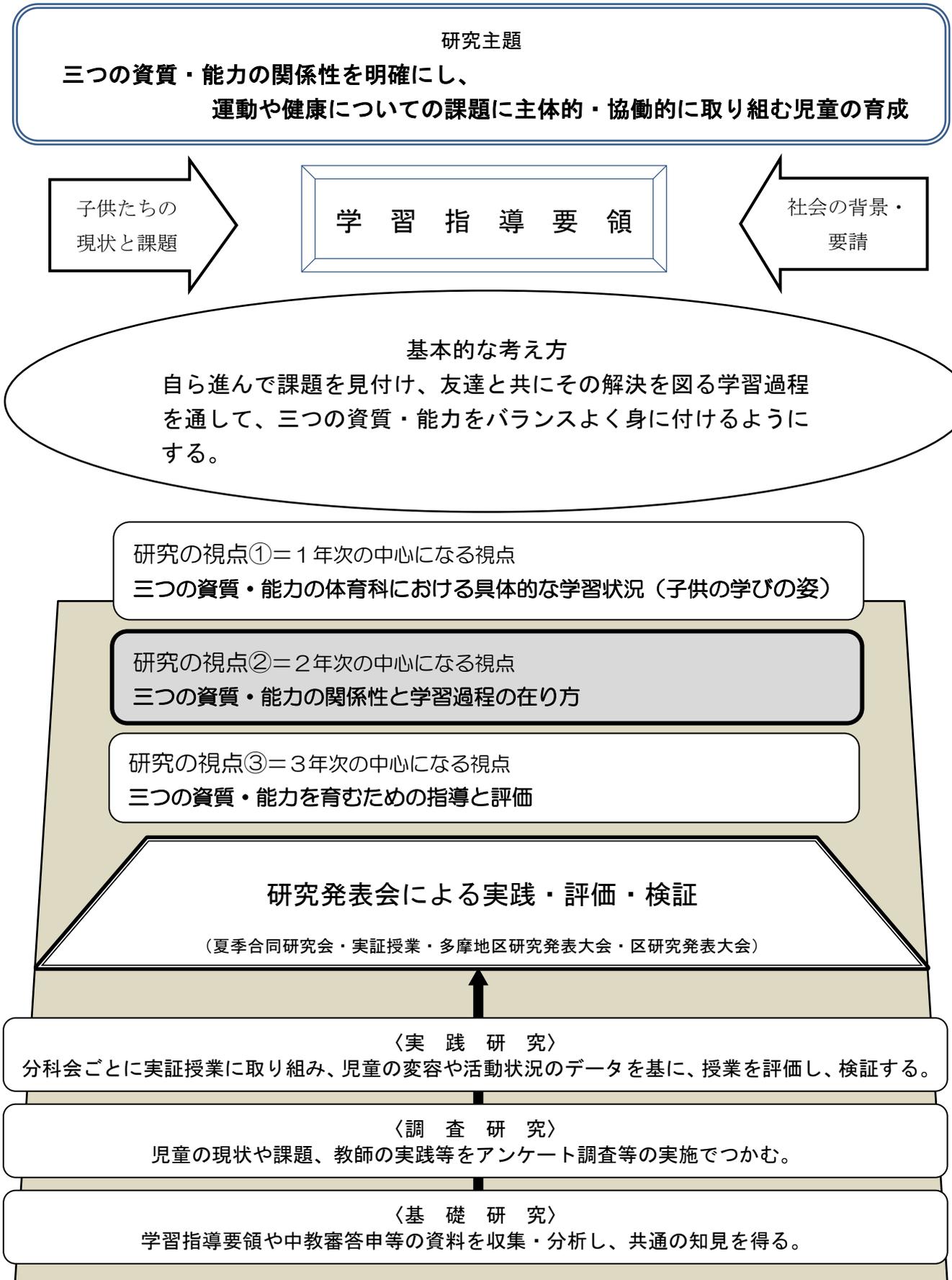
目 次

1	研究経過・報告	…P.1
2	各領域部会	…P.2～21
	・体の動きを高める運動領域部会	…P.2
	・水泳運動系領域部会	…P.4
	・表現運動系領域部会	…P.6
	・保健領域部会	…P.8
	・体育的活動領域部会	…P.10
	・多様な動きをつくる運動（遊び）部会	…P.12
	・器械運動系領域部会	…P.14
	・陸上運動系領域部会	…P.16
	・ゲーム領域部会	…P.18
	・ボール運動領域部会	…P.20
3	会場及び時程等	…P.22～24

平成30年8月23日（木）

江東区立豊洲西小学校

研究の全体構想図



I 東京都小学校体育研究会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 主題設定の理由

本研究では、これまでの研究の成果と課題及び新学習指導要領の方向性を踏まえ、児童が体育の学習に取り組む目指すべき姿を「自ら課題解決に取り組む姿」、自ら課題解決に取り組めるようにするために重視する学習活動を「主体的・協働的な学習活動」と捉えた。児童には、運動やスポーツ、健康な生活の実践、体力向上を自らの生活の中に位置付け、これらに関する課題を自ら解決するために必要な力を育み、自らの生活の向上を図るための三つの資質・能力をバランスよく身に付ける学習が必要である。このような学習を児童の発達の段階に応じて積み重ねることにより、児童は生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになる。このことが、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現することにつながると考え、本研究主題を設定した。

3 研究の視点

新学習指導要領の全面実施までの移行措置期間に当たる時期となるため本研究主題を3か年間継続し、以下の視点によって年次を追って研究を進めて行くこととする。

(1) 研究の視点1 = 1年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（子供の学びの姿）

(2) 研究の視点2 = 2年次の中心となる視点<本年度の重点>

- 三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方

(3) 研究の視点3 = 3年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力を育むための指導と評価

II 夏季合同研究会

1 目的

体育学習の質的向上を図り、また研究成果を普及していくために、次の2点を柱に開催する。

- 各領域部会における基礎研究及び基礎研究に基づく授業の実施案等について参加者に提案し、研究協議を行うことにより研究を深める。
- 各領域部会部員及び参観者の授業改善に資する。

2 研究経過報告

- 総会を挟んで5回の正副部長会を開催し、夏季合同研究会に至る。

	開催日	内 容
第1回	4月19日(木)	研修：30年度の事業計画並びに各領域部会の研究計画
第2回	5月 7日(月)	研修：各領域の今年度の研究の方向性について
総会	5月10日(木)	講演：「三つの資質・能力を身に付けるための学習過程の在り方」
第3回	6月19日(火)	研修：研究の視点2と学習指導要領解説の内容について
第4回	7月12日(木)	研修：①夏季合同研究会に向けて研究の視点2及び研究内容について ②各領域部会の資料の内容について
第5回	8月21日(火)	夏季合同研究会事前準備（領域部会別研究報告リハーサル）
夏季 合同 研究会	8月23日(木)	【領域別研究報告】 ○研究主題の考え方と研究の概要について 【研究分科会提案】 ①研究の内容（研究の視点1～3）について ②実証授業の学習指導案

III 今後の予定

- (1) 実証授業（8・9・10月に各領域部会で開催）
- (2) 研究発表大会
 - ① 多摩地区（11月2日 東村山市立八坂小学校）
 - ② 区部（2月22日 板橋区立志村第六小学校）
- (3) 正副部長会（9月以降、月例開催）

体の動きを高める運動領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の研究の成果は、「体力を高める運動における学び方」についての理解を深めた児童の学びの姿を明らかにしたことにある。また、「理解を深めた児童」に至る手だてを明確にし、学習環境（学習形態、学習カード、学習資料、掲示物）や声掛け（発問と称賛）、共有場面の設定等の有効性を実証できた。今年度は、児童が運動の楽しさや喜びを味わいながら、体育の見方・考え方を働かせて課題解決を目指す学習過程の在り方に重点を置いて研究を進める方針である。

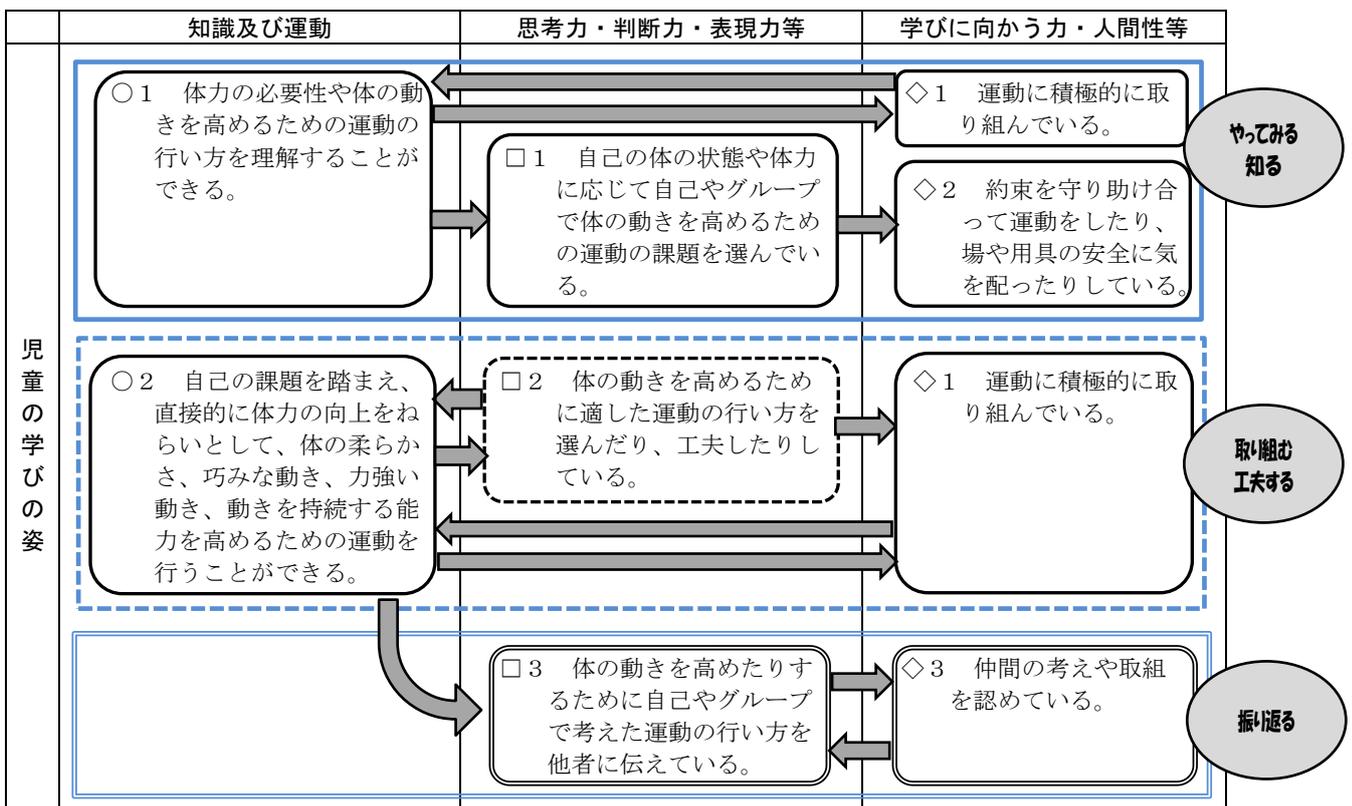
2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び運動	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解することができる。 ○2 自己の課題を踏まえ、直接的に体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □1 自己の体の状態や体力に応じて自己やグループで体の動きを高めるための運動の課題を選んでいる。 □2 体の動きを高めるために適した運動の行い方を選んだり、工夫したりしている。 □3 体の動きを高めるために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 運動に積極的に取り組んでいる。 ◇2 約束を守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。 ◇3 仲間の考えや取組を認めている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

	児童の学びの姿			学習内容・活動
	知 運	思判表	学人間	
1	○1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解することができる。	□1 自己の体の状態や体力に応じて自己やグループで体の動きを高めるための運動の課題を選んでいる。	◇1 運動に積極的に取り組んでいる。 ◇2 約束を守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。	1 柔らかさ【ボール転がし、ゴムひも・輪】 2 巧みな動き【長なわ、馬跳び】 ・もとの動きをやってみる。(□1)(◇1) 3 巧みな動き【長なわ、馬跳び】 ・動きを工夫して取り組む。(◇2) 4 振り返り(○1)
2				
3				
4	○2 自己の課題を踏まえ、直接的に体力の向上をねらいとして、柔、巧、力、持続を高めるための運動を行うことができる。	□2 体の動きを高めるために適した運動の行い方を選んだり、工夫したりしている。	◇1 運動に積極的に取り組んでいる。	1 柔らかさ【ボール転がし、ゴムひも・輪】 2 巧みな動き【みんなでジャンプ、ボール】 ・もとの動きをやってみる。 3 巧みな動き【みんなでジャンプ、ボール】 ・動きを工夫して取り組む。(○2)(□2)(◇1) 4 振り返り
5				
6				
7				
8	□3 体の動きを高めるために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。	◇3 仲間の考えや取組を認めている。	1 動きを持続する能力【エアロビクス】 2 力強い動き【いろいろすもう、腕立て伏せ】 ・もとの動きをやってみる。 3 力強い動き【いろいろすもう、腕立て伏せ】 ・動きを工夫して取り組む。(□3)(◇3) 4 振り返り	
9				
10	○1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解することができる。			1 動きを持続する能力【エアロビクス】 2 巧みな動き【長なわ、馬跳び】 ・動きを工夫して取り組む。 3 巧みな動き【みんなでジャンプ、ボール】 ・動きを工夫して取り組む。 4 振り返り(○1)

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

本部会では、実証授業後に次年度に向けて「学びに向かう力・人間性等」の評価の在り方に研究の重点を置く予定である。「人間性」は、観点別評価になじまないことから記述での評価とし、「学びに向かう力」は「主体的に取り組む態度」として評価する。「主体的に取り組む態度」は、学習カードや発言、動きによって見取ることができると考えられる。また、学習カードや発言、動きに対する教師の働きかけによって、「主体的に取り組む態度」はより一層促される可能性があり、次年度に検証する価値がある。

5 実証授業について

- 第5学年「体の動きを高める運動」第6時を予定
- 新学習指導要領解説体育編にて新たに例示された運動を取り扱う予定

6 研究主題に迫る手立てについて

- 「知識」から「理解」へと深まる過程の明確化
- 動きの高まりについての定義の明確化
- 体育の見方・考え方を働かせる学習場面の明確化
- 工夫の視点の明確化
- 運動課題に主体的・協働的に取り組むために必要な合言葉「かつ井できた！」

水泳運動系領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

本部会の昨年度の研究から三つの資質・能力が密接に関わり合っていることがわかった。その中で、知識及び技能が思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等に影響を与えているということが分かった。そのため本部会では特に知識を起点とした学習過程を設定した。

水泳運動系における「主体的、協働的に取り組む」姿は小集団による課題解決的な学習の中で現れると考えてきた。自己の能力に応じた課題をもち、その解決の方法を工夫し、友達と互いに協力しながら学習を進めていくことが、個人の技能差が大きい水泳運動系の学習では特に有効であると考えた。

本部会では、運動を通して正しい知識理解を図り、それらが発揮されるような学習過程・学習活動を考案し、検証することを通して主体的・協働的に取り組む児童を育成する。

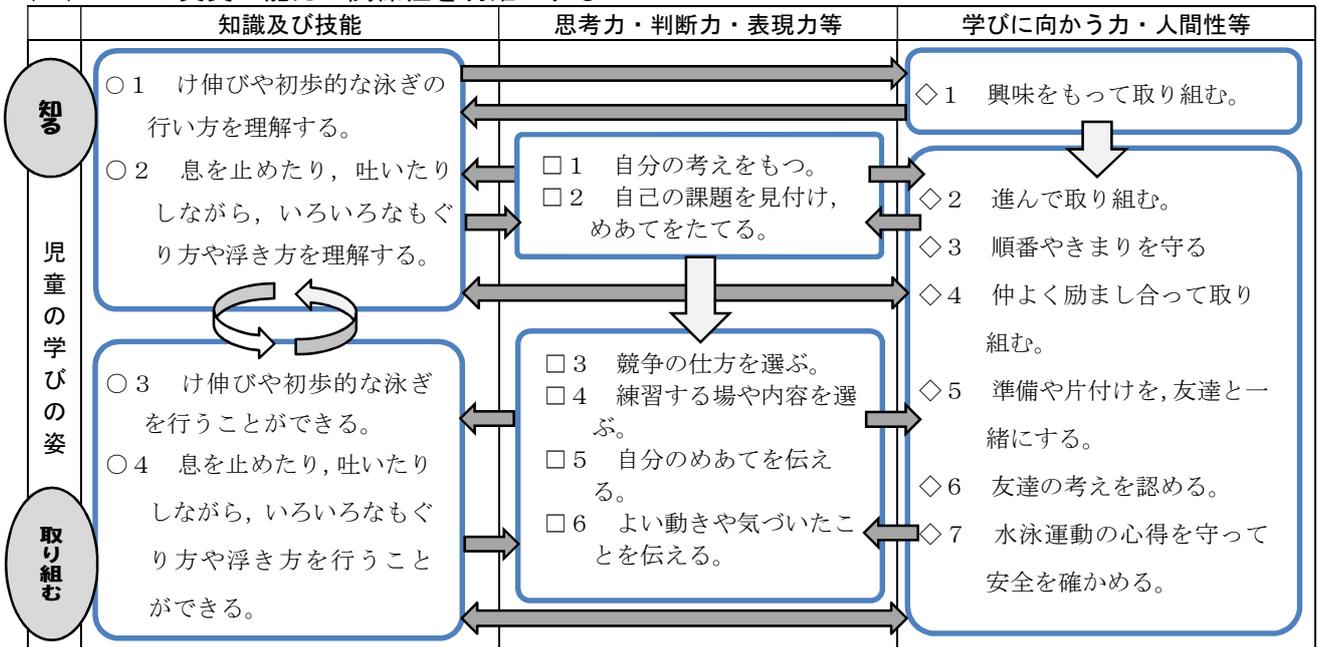
2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞ （第3学年）

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 け伸びや初歩的な泳ぎの行い方を理解する。 ○2 息を止めたり、吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方を理解する。 ○3 け伸びや初歩的な泳ぎを行うことができる。 ○4 息を止めたり、吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □1 友達の運動を観察し、よい動きについて自分の考えをもつ。 □2 進んだ距離やできた回数を確かめて自己の課題を見付け、めあてをたてる。 □3 自己の能力に適した競争の仕方を選ぶ。 □4 自己の課題に応じて、練習する場や内容を選ぶ。 □5 自分のめあてを友達に伝える。 □6 よい動きや気付いたことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 運動に興味をもって取り組む。 ◇2 進んで取り組む。 ◇3 運動の順番や運動する場所などのきまりを守る。 ◇4 誰とでも仲よく励まし合って運動に取り組む。 ◇5 用具や補助具の準備や片付けを、友達と一緒にする。 ◇6 友達の考えを認める。 ◇7 水泳運動の心得を守って安全を確かめる。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

	児童の学びの姿			学習内容・活動
	知 技	思 判 表	学 人 間	
1	○1 け伸びや初歩的な泳ぎの行い方を理解する。 ○2 息を止めた り、吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方を理解する。	□1 自分の考えをもつ。 □2 自己の課題を見付け、めあてをたてる。	◇1 興味をもって取り組む。	1 あいさつ、バディ（トリオ）、準備運動(◇7)
2			◇2 進んで取り組む。	2 リズム水泳、エンジョイタイムを行う
3			◇3 順番やきまりを守る	3 友達の良い動きを見付ける(□1)(◇1)
4			◇4 仲よく励まし合って取り組む。	4 学習の進め方を知る(○1)(○2)
5			◇5 準備や片付けを、友達と一緒にする。	1 あいさつ、バディ（トリオ）、準備運動(◇7)
6			◇6 友達の考えを認める。	2 リズム水泳、エンジョイタイムを行う(◇2)(◇3)(◇5)
7			◇7 水泳運動の心得を守って安全を確かめる。	3 小集団で取り組む1 (○1)(○2)(□1)(◇4)(◇6) 「上手に○○する方法を見付ける。」 ・呼吸する ・もぐる ・浮く ・手足の動かし方
8			□4 練習する場や内容を選ぶ。 □5 自分のめあてを伝える。 □6 よい動きや気づいたことを伝える。	◇4 準備や片付けを、友達と一緒にする。 ◇5 準備や片付けを、友達と一緒にする。 ◇6 友達の考えを認める。 ◇7 水泳運動の心得を守って安全を確かめる。
9	○3 け伸びや初歩的な泳ぎを行うことができる。 ○4 息を止めた り、吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方を行うことができる。	□2 自己の課題を見付け、めあてをたてる。 □3 競争の仕方を選ぶ。 □4 練習する場や内容を選ぶ。 □5 自分のめあてを伝える。 □6 よい動きや気づいたことを伝える。	◇1 興味をもって取り組む。	1 あいさつ、バディ（トリオ）、準備運動(◇7)
10			◇2 進んで取り組む。	2 リズム水泳、エンジョイタイムを行う(□3)
11			◇3 順番やきまりを守る	3 小集団学習で取り組む2 (○3)(○4)(□2)(□4)(□5)(◇4)(◇6) 「自己の課題を設定して、活動や場を選択して解決を図る」 ・マグロコース・とびうおコース・ペンギンコース
12			◇4 仲よく励まし合って取り組む。	4 泳ぎの確かめ・振り返りを行う (□2) (□6)

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

単元全体で、三つの資質・能力について「いつ」「どのような場面で」「どのような力を身に付けるのか」を明確にし、指導計画を作成する。一単位時間の指導のねらいを明確にし、それに基づいて指導することができるような単元及び評価の計画を作成する。

5 実証授業について

第3学年 水泳運動「西葛西 エンジョイ！スイミング！！」

全12時間扱いの11時を実施予定

8月30日（木）13：45より 江戸川区立西葛西小学校で実施予定

6 研究主題に迫る手立てについて

- 低学年「水遊び」との接続を大切にした課題解決的な学習
- どの子も今もっている力で楽しめる活動の展開
- 「浮いて進む運動」「もぐる・浮く運動」の活動例とその展開
- 単元を通して行う小集団学習

表現運動系領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の研究成果と課題

- リズムの特徴をつかませるための手だてが有効であった。リズムに乗って、おへそを中心に全身で弾んで踊ることができた。
- 「習得」→「活用」の流れを基本とした授業構成は、児童がリズムの乗り方をつかんだり、動き方に変化をさせたりするのに有効であった。
- ▲2年間で考えた際の「探究」の時間をどのように扱うか。
- ▲「見合う」、「伝え合う」活動が形式的になっており、児童は必要感を感じていなかった。

今年度の方向性や重点

今年度は、昨年度明らかにした表現運動系領域における三つの資質・能力の具体的な姿を引き出すための学習過程を作成することを重点として研究を進めていく。また、4年生のリズムダンスの授業を行い「探究」の段階を中心に児童の姿を明らかにするとともに、児童が必要感をもって対話することができるような手立てを講じ、主体的・協働的に学習に取り組む児童を育成する。

2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1リズムの特徴を捉え即興的に踊っている。 ○2左右に弾んだりスキップで回ったり移動したりして踊っている。 ○3ねじる、回る、素早く、ストップなどの変化をつけて踊っている。 ○4友達と調子を合わせたり、かけ合いをしたりして踊っている。 ○51曲を通して即興的に踊っている。 	<ul style="list-style-type: none"> □1楽しく踊るために四つの変化から動きを選んでいる。 □2友達や他のグループのよい動きをクラスや友達に伝えている。 □3自分やグループの課題に合ったリズム（曲）を選んでいる。 □41曲を通して楽しく踊るために新たな動きや変化を加えて踊っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1リズムダンスに進んで取り組んでいる。 ◇2誰とでも気持ちよく踊ったり交流したりしている。 ◇3友達の動きや考えを認めている。 ◇4友達とぶつからないように安全を確かめながら踊っている。 ◇5場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にやっている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1リズムの特徴を捉え即興的に踊っている。 ○2左右に弾んだりスキップで回ったり移動したりして踊っている。 ○3ねじる、回る、素早く、ストップなどの変化をつけて踊っている。 	<ul style="list-style-type: none"> □1楽しく踊るために四つの変化から動きを選んでいる。 □2友達や他のグループのよい動きをクラスや友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1リズムダンスに進んで取り組んでいる。 ◇2誰とでも気持ちよく踊ったり交流したりしている。 ◇3友達の動きや考えを認めている。 ◇4友達とぶつからないように安全を確かめながら踊っている。 ◇5場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にやっている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○4友達と調子を合わせたり、かけ合いをしたりして踊っている。 ○51曲を通して即興的に踊っている。 	<ul style="list-style-type: none"> □3自分やグループの課題に合ったリズム（曲）を選んでいる。 □41曲を通して楽しく踊るために新たな動きや変化を加えて踊っている。 	

習得 → 活用 → 探究

(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

		児童の学びの姿			学習内容・活動
		知 技	思判表	学人間	
1 2	習得・活用	○1 リズムの特徴を捉え即興的に踊っている。		◇1 リズムダンスに進んで取り組んでいる。 ◇2 誰とでも仲よく踊ったり交流したりしている。	○心と体をほぐす。 ○教師のリードでリズムの特徴を捉えて踊る。 ○1 ・ロック ・サンバ ○2人組で踊る。 互いの踊りを真似したり対応したりして踊る。 ○4人組で踊る。 教師の合図でリーダーと真似をして踊る人を交代しながら踊る。 ○1 ○クーリングダウン ○振り返り
3 4	探究	○2 左右に弾んだりステップで回ったり移動したりして踊っている。 ○3 ねじる、回る、素早く、ストップなどの変化を付けて踊っている。	□1 楽しく踊るために四つの変化から動きを選んで選んでいる。 □2 友達や他のグループのよい動きをクラスや友達に伝えている。	◇3 友達の動きや考えを認めている。 ◇4 友達とぶつからないように安全を確かめながら踊っている。	○心と体をほぐす。 ○4人組で、曲を選んで1曲を通して踊る。 ○2, 3 ・ロックの中から曲を選んで踊る。 ・サンバの中から曲を選んで踊る。 ・リーダーを交代しながら即興的に踊る。 ○他の4人組とお気に入りの動きを交流し合う。 □1, 2 ・ペアグループで、ダンスを見せ合い一緒に踊る。 ・自分たちの動きに取り入れたい動きを見付け話し合う。 ○クーリングダウン ○振り返り
5	探究	○4 友達と調子を合わせたり、かけ合いをしたりして踊っている。 ○5 1曲を通して即興的に踊っている。	□3 自分やグループの課題に合ったリズム(曲)を選んでいる。 □4 1曲を通して楽しく踊るために新たな動きや変化を加えて踊っている。	◇5 場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にに行っている。	○心と体をほぐす。 ○4人組で曲を選び、1曲を通して踊る。 ○4, 5 □3, 4 ・サンバ ・ロック ○お気に入りの動きを交流し合う。 ○クーリングダウン ○振り返り
6					○心と体をほぐす。 ○ダンスパーティを行う。 ○4, 5 □3, 4 ・全員で円形に並ぶ。 ・グループごとに円の中心に入って踊り、周りの児童は真似をする。 ○よかった動きを伝え合う。 ○クーリングダウン ○振り返り

4 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

学習活動に即した評価規準をより多くの教員が活用できるものを作成する。そこで、多様な評価場面や評価方法について検討し、児童の学習状況を適切に評価し、指導の改善につながることをできるようにしていく。

5 実証授業について

- ① 第4学年 ② 単元名 「リズムダンス」
- ③ どのような授業をめざすか
 - ・「三つの資質・能力の具体的な学習状況」「主体的・協働的に学ぶ姿」が見られる授業。
 - ・習得・活用で身に付けたことを生かし、児童が自由に動きを工夫して1曲を踊る探究の段階の授業。

6 研究主題に迫る手立てについて

- 「知識及び技能」を身に付けるための手立て
 - ・教師が易しい動き(サンバ)や運動の行い方を提示する。
 - ・リズムに乗って踊ることが苦手な児童等に配慮するための例を示す。
- 「思考力・判断力・表現力等」を育む手立て
 - ・「習得」→「活用」→「探究」という三つの段階で構成する単元計画に基づいた授業を構成する。
 - ・児童が課題を解決するための必要感をもって、協働的に学ぶことができるようにする。
- 「学びに向かう力・人間性等」を養う手立て
 - ・授業の導入時に心と体をほぐす運動(円形コミュニケーションやリズム遊び等)を行う。
 - ・教師の肯定的な声掛けにより、温かい雰囲気の中で行われる授業を展開する。
 - ・個→ペア→グループと次第に人数を増やし、関わりを工夫できるようにする。

7 その他 一般化に向けた取組(いつでも、だれでも授業ができるようにする)

- おすすめの曲リストの更新 ○やさしい運動「よろしくね ダンス」のサンバ ver の作成
- 動きのレパトリーの整理(ロック、サンバ)の整理+教師用資料として動画作成
- ダンス交流会(ダンスパーティ)を行うための場の工夫

保健領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の研究の成果は、「養護教諭との連携とICTを効果的に用いたことによる知識習得」「知識習得が児童の実践への意欲につながったこと」の2点である。課題は「三つの資質・能力を身に付けた具体的な児童の姿に近づけるための授業改善」「養護教諭との連係に加えて、他の教育活動と保健学習をつなげた学習過程の工夫」の2点である。以上の成果と課題から、今年度の研究は以下の2点を中心に進めていく。

○児童にとって「考えたい」「楽しい」「役に立つ」授業改善につながる課題設定の工夫

○児童にとって、身近で実践への意欲につながる学習にするために、運動領域、養護教諭による保健指導等と関わらせた学習過程の工夫

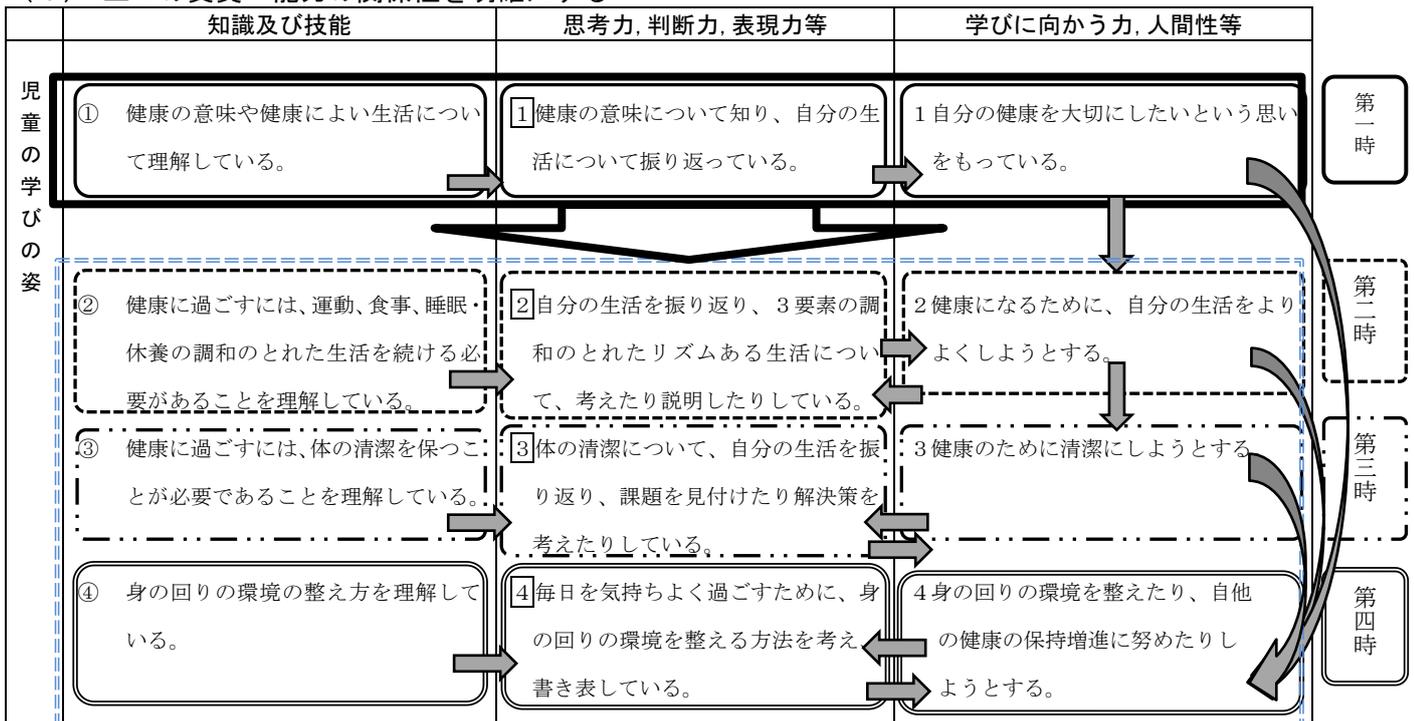
2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

<三つの資質・能力の具体的な学習状況>

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	① 健康の意味や健康によい生活について理解している。	①健康の意味について知り、自分の生活について振り返っている。	1 自分の健康を大切にしたいという思いをもっている。
	② 健康に過ごすには、運動、食事、睡眠・休養の調和のとれた生活を続ける必要があることを理解している。	②自分の生活を振り返り、3要素の調和のとれたリズムある生活について、考えたり説明したりしている	2 健康になるために、自分の生活をよりよくしようとする。
	③ 健康に過ごすには、体の清潔を保つことが必要であることを理解している。	③体の清潔について、自分の生活を振り返り、課題を見付けたり解決策を考えたりしている。	3 健康のために清潔にしようとする。
	④ 身の回りの環境の整え方を理解している。	④毎日を気持ちよく過ごすために、身の回りの環境を整える方法を考え、書き表している。	4 身の回りの環境を整えたり、自他の健康の保持増進に努めたりしようとする。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

	児童の学びの姿			学習内容・活動
	知 技	思 判 表	学 人 間	
1	①健康の意味や健康 により生活につ いて理解している。	1健康の意味につ いて知り、自分 の生活について 振り返ってい る。	1自分の健康 を大切にし たいという 思いをもっ ている。	1 自分の健康について考える。 2 健康とはどのような状態であるかを知る。 3 健康であるために必要なことを考える。①1 4 学習のまとめをする。1
2	②健康に過ごすに は、運動、食事、 睡眠・休養の調和 のとれた生活を続 けることが必要で あることを理解し ている。	2自分の生活を振 り返り、3要素 の調和のとれた リズムある生活 について、考え たり説明したり している	2健康になる ために、自 分の生活を よりよくし ようとし る。	1 前時をふり返り、互いを認めあう。 2 体調不良の原因を考える。 3 健康に過ごすための生活を考える。 4 健康な生活の仕方を知る。② 5 自分の生活をふり返り、作戦カードを作成する。2 6 学習のまとめをする。2
3	③健康に過ごすに は、体の清潔を保 つことが必要であ ることを理解して いる。	3体の清潔につ いて、自分の生活 を振り返り、課 題を見付けたり 解決策を考えたり している。	3健康のため に清潔にし ようする。	1 前時をふり返り、互いを認めあう。 2 体の清潔について考える。 3 体を清潔にする方法を知る。③3 4 自分の生活を振り返り、学習のまとめをする。3
4	④身の回りの環境の 整え方を理解して いる。	4毎日を気持ちよ く過ごすために、 身の回りの環境を 整える方法を考 え、書き表してい る。	4身の回りの 環境を整え たり、自他 の健康の保 持増進に努 めたりしよ うとする。	1 前時をふり返り、互いを認めあう。 2 身の回りの環境について考える。 3 環境を整える方法を考える。 4 環境を整える方法を知る。④ 5 健康を守るための活動を知る。 6 健康に生活するために自分の生活を見直す。4 7 全4時間のまとめをする。1 2 3 4

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

三つの資質・能力について、具体的な3年児童の姿を明らかにし、1単位時間ごとにまとめる。その関係性を踏まえた学習過程と1単位時間ごとの授業内容を検討していく中で、指導と評価についても考え、児童の学習カードへの記入例とその評価方法という形式でまとめる。

5 実証授業について

授業日・会場： 平成30年 9月25日(火) 大田区立梅田小学校

授業内容： 第3学年「毎日の生活と健康」

全4時間中の第2時「1日の生活の仕方」を実施予定

見どころ： 課題設定の工夫、養護教諭との連携、ICTの活用

6 研究主題に迫る手立てについて

○課題設定の工夫

- ・児童にとって身近な課題を設定することで、主体的な学びを促す。
- ・ICTの活用を通して、児童が課題をとらえやすくなるように工夫する。
- ・対話的な活動を通して、自他の健康について考えを深められるようにする。
- ・課題解決的な学習を繰り返すことで、知識の実践的な理解を図り、深い学びへとつなげる。

○学習過程の工夫

- ・運動領域との関わりを踏まえた学習過程を通して、心身の健康の保持増進を図る。
- ・養護教諭との連携を通して、保健指導と関わらせた、より実践的な学習過程を作成する。

7 その他

平成29年度に保健部が開発したICT教材、指導案、学習カードの入ったDVDを、本日の分科会でお配りします。まだDVDをお持ちでない方は、ぜひ、2学期からの授業でご活用ください。

体育的活動領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

「(意図的・計画的な運動遊びに出会わせて)、児童が夢中になって仲間と一緒に遊ぶ姿」

教師が意図的・計画的に仕組みで、遊びたいという欲求を充足し、遊びに夢中にさせる中で、運動に親しむ力を育み、仲間との関わりを楽しみを見出すことができ、結果として体力の向上につながる。様々な運動遊びに児童が夢中になって仲間と一緒に遊ぶ姿が「主体的・協働的に取り組む」姿であると考え。

「主体的・協働的に取り組む」 = 「夢中になって仲間と一緒に遊ぶ」 → 生涯にわたる豊かなスポーツライフ

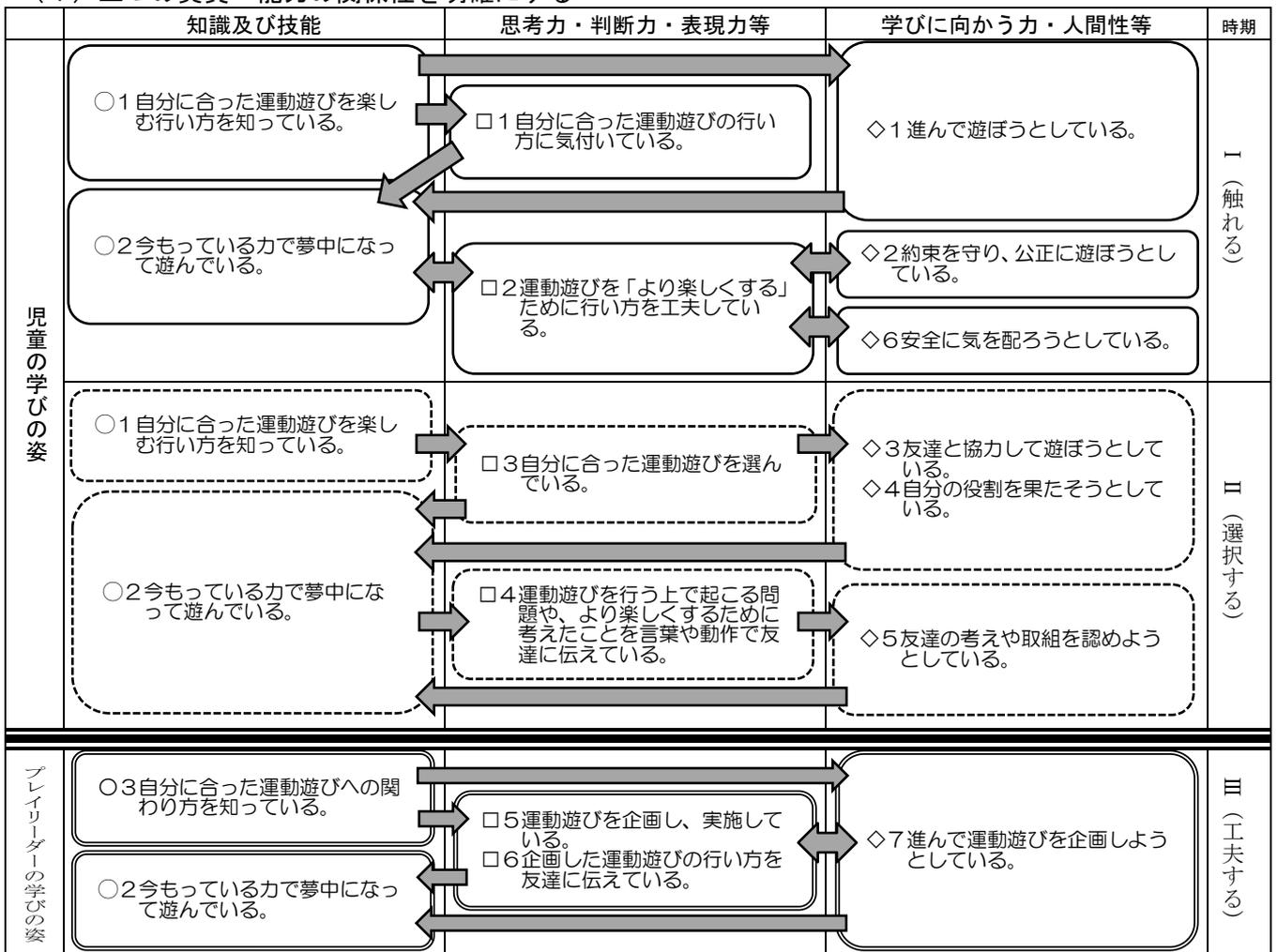
2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な活動状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
児童の学びの姿	<input type="checkbox"/> 1 自分に合った運動遊びを楽しむ行い方を知っている。 <input type="checkbox"/> 2 今もっている力で夢中になって遊んでいる。	<input type="checkbox"/> 1 自分に合った運動遊びの行い方に気付いている。 <input type="checkbox"/> 2 運動遊びを「より楽しくする」ために行い方を工夫している。 <input type="checkbox"/> 3 自分に合った運動遊びを選んでいる。 <input type="checkbox"/> 4 運動遊びを行う上で起こる問題や、より楽しくするために考えたことを言葉や動作で友達に伝えている。	<input type="checkbox"/> 1 進んで遊ぼうとしている。 <input type="checkbox"/> 2 約束を守り、公正に遊ぼうとしている。 <input type="checkbox"/> 3 友達と協力して遊ぼうとしている。 <input type="checkbox"/> 4 自分の役割を果たそうとしている。 <input type="checkbox"/> 5 友達の考えや取組を認めようとしている。 <input type="checkbox"/> 6 安全に気を配ろうとしている。
	プレイヤーの具体的な活動状況		
	<input type="checkbox"/> 3 自分に合った運動遊びへの関わり方を知っている。	<input type="checkbox"/> 5 運動遊びを企画し、実施している。 <input type="checkbox"/> 6 企画した運動遊びの行い方を友達に伝えている。	<input type="checkbox"/> 7 進んで運動遊びを企画しようとしている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での活動過程

時期		児童の学びの姿			活動過程（20分）
		知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
Ⅰ期（触れる）	様々な遊びをやってみる 楽しさを知る	○1自分に合った運動遊びを楽しむ行い方を知っている。	□1自分に合った運動遊びの行い方に気付いている。	◇1進んで遊ぼうとしている。	※1つの運動遊び1回ずつ ④振り返る、2分 ①準備する、3分 ②知る、5分 ③取り組む、10分
		○2今もっている力で夢中になって遊んでいる。	□2運動遊びを「より楽しくする」ために行い方を工夫している。	◇2約束を守り、公正に遊ぼうとしている。 ◇6安全に気を配ろうとしている。	
Ⅱ期（選択する）	遊びを選択する 遊びを工夫する	○1自分に合った運動遊びを楽しむ行い方を知っている。	□3自分に合った運動遊びを選んでいる。	◇3友達と協力して遊ぼうとしている。 ◇4自分の役割を果たそうとしている。	※1つの運動遊び2回1サイクル ③振り返る、2分 ①準備する、3分 ②取り組む、15分
		○2今もっている力で夢中になって遊んでいる。	□4運動遊びを行う上で起こる問題や、運動遊びをより楽しくするために考えたことを言葉や、動作で友達に伝えている。	◇5友達の考えや取組を認めようとしている。	
Ⅲ期（工夫する）	楽しませる楽しさを知る 遊びを深める	○3自分に合った運動遊びへの関わり方を知っている。	□5運動遊びを企画し、実施している。 □6企画した運動遊びの行い方を友達に伝えている。	◇7進んで運動遊びを企画しようとしている。	※プレイヤーの活動 ① 運動遊びを企画する ④振り返る、2分 ①準備する、3分 ②説明する、2分 ③取り組む、13分

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

体育的活動は休み時間、業前・業間等の活動であり、教科体育とは異なり、学習指導要領に具体的な指導内容が明記されているわけではない。したがって、児童一人一人に対して、評価規準をもとにできているかどうかを評価することはしない。しかし、体育的活動においても三つの資質・能力に関わる学びはある。研究の視点1で示した「児童の学びの姿」が活動の各場面、各場所で見られるかどうかを見取り、「夢中になって仲間と一緒に遊ぶ」ことができているかを評価する必要がある。活動を評価し、意図的・計画的な活動が夢中になって遊ぶことにつながっていないときには、指導と評価の一体化を踏まえて、研究の視点2の「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」矢印を戻り、実態に合わせて活動に取り組むことにつなげていく必要があると考えている。

5 実証活動について

授業日・会場：平成30年9月20日（木）足立区立足立小学校
活動名・実施学年：「元気アップタイム」全学年による運動遊び

6 研究主題に迫る手立てについて

- 活動過程を3段階にしたこと（Ⅰ期～Ⅲ期）
- 活動の導入（Ⅰ期）は教師が遊びを選び、学級単位で回ること
- たくさんの種類の遊びの提示（Ⅰ期：低…6、中…6、高…6の計18種類）
（Ⅱ期：1～3年生…15種類、4～6年生15種類）

7 その他

- 出前実技研修会…体育的活動を東京都中に広めるために、様々な地区や学校で実施している。

多様な動きをつくる運動(遊び)部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

- 一人一人の「やってみたい」という運動欲求に火をつけ、「もっとやってみたい」と意欲を持続させていくことが、多様な動きを身に付けることにつながると考え、「学びに向かう力,人間性等」を中心に、三つの資質・能力を互いに結び付け合いながら、膨らませ、バランスよく育てていきたい。
- 前年度は、「運動遊び」及び「運動」における教師の働き掛けの違いや三つの資質・能力の具体的な学習状況、特に主体的に学ぶ児童の姿を明らかにした。今年度は、単元の序盤・中盤・終盤における課題解決の手だてとして、「学びを価値付ける時間」や「振り返り」の充実等、教師の働き掛けについて研究することで、より主体的・協働的に学ぶ児童の育成を図っていきたいと考える。

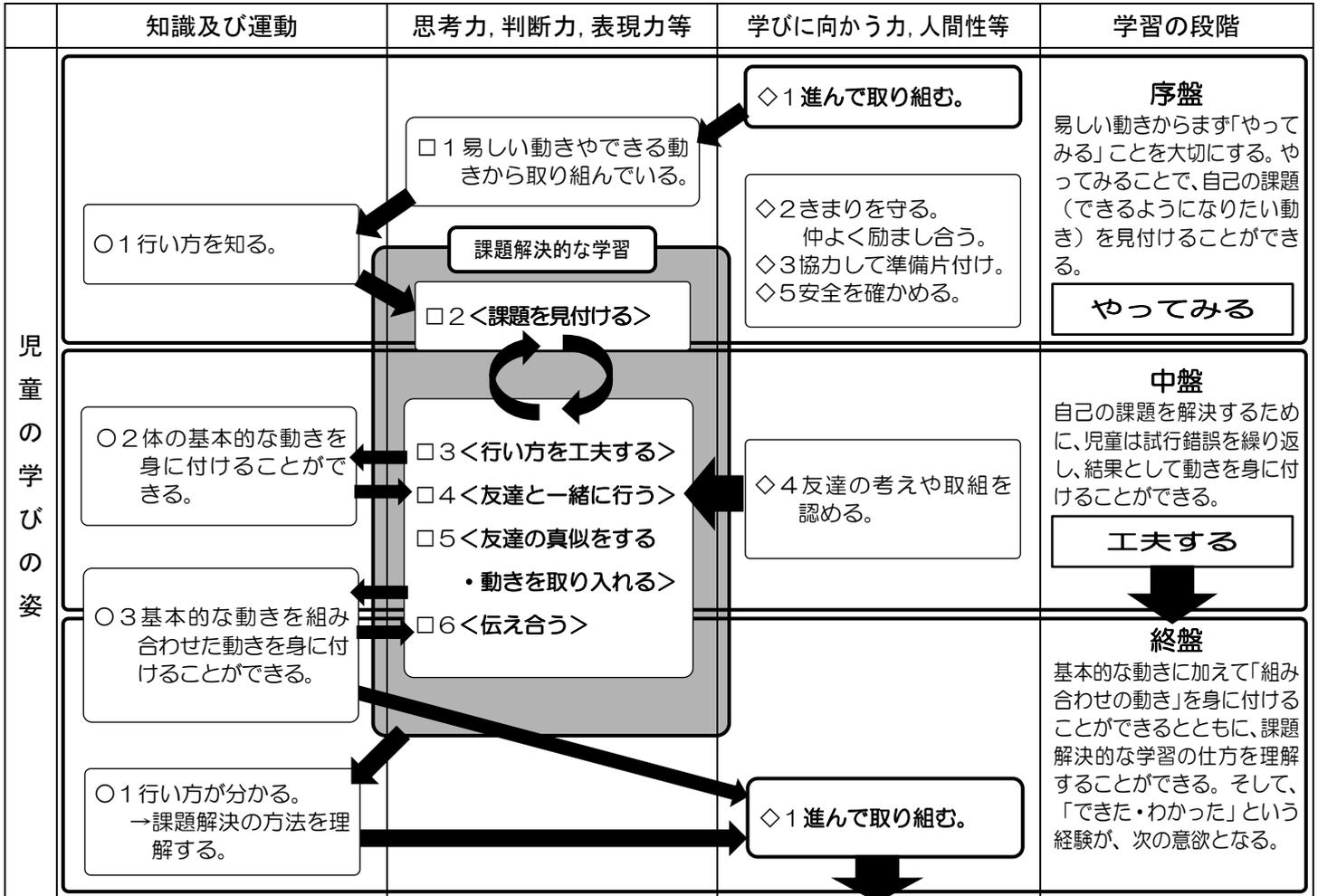
2 研究の視点1 「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び運動	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 多様な動きをつくる運動の行い方を知る(分かる)。 ○2 体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。 ○3 基本的な動きを組み合わせた動き、主に移動の仕方を工夫した動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □1 様々な体の基本的な動きを身に付けるために行い方を選んでいる。 □2 友達と自己の運動の行い方を比べるなどして、自己の課題を見付けている。 □3 さらに行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変えている。 □4 友達と声を出して動きを合わせるなど、リズムやタイミングを合わせる行い方を選んでいる。 □5 友達の行い方を真似したり、それを修正したりしながら、自己に適した動き方を選んでいる。 □6 運動のポイントや行い方について、自己の気づきを学習カードに書いて発表したり、大切だと感じたことを友達に教えたり(紹介したり)している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 進んで取り組もうとしている。 ◇2 きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合って運動しようとしている。 ◇3 友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ◇4 友達の考えや取組を認めようとしている。 ◇5 場や用具の安全を確かめようとしている。

3 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性とその学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする(多様な動きをつくる運動・中学年における考え方)



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程（第3学年のフープを使った単元を例に）

時間	段階	児童の学びの姿			学習内容・活動
		知識及び運動	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等	
1	序盤 (やってみる)	○1 多様な動きをつくる運動の行い方を知る。	□1 易しい動きやできる動きから取り組んでいる。	◇1 進んで取り組もうとしている。	○やってみる ・回す ・転がす ・投げる、捕る ○学びを価値付ける時間 ・よい動き ・動きのこつ
2				◇2 きまりを守る。 仲よく励まし合う。 ◇3 協力して準備片付けをする。 ◇5 安全を確かめる。	○やってみる ・回す ・転がす ○学びを価値付ける時間 ・回す+移動 ・転がす+移動 ・組み合わせのこつ
3	中盤 (工夫する)	○2 体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。 ○3 基本的な動きを組み合わせた動き、主に移動の仕方を工夫する動きを身に付けることができる。 ○1 行い方が分かる。 →課題解決の方法を理解する。	□3 行い方を工夫する	◇4 友達の考えや取組を認めようとしている。	○回す+移動の動きに取り組む ○学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ
4			□4 友達と一緒にいる		○転がす+移動の動きに取り組む ○学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ
5			□5 友達の真似をする動きを取り入れる		○行いたい動きを選択する ・回す+移動コーナー ・転がす+移動コーナー ○学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ
	終盤		□6 伝え合う ・学びを価値付ける時間 ・振り返り ・学習カード	◇1 進んで取り組もうとしている。	

4 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

具体的な学習状況を学習過程の中で示すとともに、一単位時間の学習の手だてを明確にする。指導と評価は一体であるとの考え方から、評価を次の指導に生かすために、毎時間の児童の形成的評価や動きの表出を見取ることが大切であると考えます。

5 実証授業について

授業日・会場：平成30年10月25日（木） 品川区立豊葉の杜学園

授業：第3学年 多様な動きをつくる運動

（内容 棒やタオルを使った動き、用具操作【フープ】、組み合わせの動き【フープ+移動】）

6 研究主題に迫る手だてについて

<課題解決を図るための教師の働き掛け>

(1) 「学びを価値付ける時間」について（発問、よい動きの捉え方、伝え合い）

○児童の思考を促すための発問を考える。

○よい動きの捉え方として、「動き」と「行い方」の違いを明確にして価値付ける。

○児童が互いを認め合ったり、動きや行い方を見合ったり、個々の感じ方を表現しながら教え合ったりしている姿を価値付けする。

(2) 「振り返り」について（学習カードの工夫）

○児童が学習を振り返る中で、何ができるようになったのかを意識できたり、学習した内容を次時や他領域で生かしたりするために、より効果的な学習カードを考える。

○実態に合わせて活用できるように、多様な形式の学習カードを提案する。

器械運動系領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

本部会では、次期学習指導要領の考え方を踏まえ、「主体的・協働的に取り組む姿」は課題を見付け、その解決に向けた学習の中で現れると考えた。「主体的」とは、学習に興味や関心をもち、見通しや自己の目標をもって課題の解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く学習に取り組み、自己の学習を振り返り、課題の修正・新たな課題の設定をして、次につなげること、「協働的」とは、自他の課題の解決に向けて、仲間と助け合ったり認め合ったりすることと考えた。

今年度は、①「学習のスタートとゴールを明確にして、課題解決の道筋を示すこと」と②「学びの連続性を意識した学習過程の作成」に重点を置き、研究を進めていく。

2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。 ○ 2 技の行い方やポイントを理解している。 ○ 3 技の練習の仕方を理解している。 ○ 4 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりして技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1 自己の能力に適した課題を見付けている。 □ 2 学習カードや掲示物などを活用して課題の解決に向けた活動（練習の場や段階）を選んでいる。 □ 3 観察し合って見付けた自己のこつや自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 □ 4 技のできばえを振り返り、課題を修正したり新たな課題を見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1 準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。 ◇ 2 学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ◇ 3 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ◇ 4 場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。 ◇ 5 基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	○ 1 運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。		◇ 1 準備や片付けなど分担された役割を果たしている。
	○ 2 技の行い方やポイントを理解している。 ○ 3 技の練習の仕方を理解している。	□ 1 自己の能力に適した課題を見付けている。	
	○ 4 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりして技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	□ 2 学習カードや掲示物などを活用して課題の解決に向けた活動（練習の場や段階）を選んでいる。 □ 3 観察し合って見付けた自己のこつや自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 □ 4 技のできばえを振り返り、課題を修正したり新たな課題を見付けたりしている。	◇ 2 学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 ◇ 3 仲間の考えや取組を認めている。 ◇ 4 場や器械・器具の安全に気を配っている。
			◇ 5 基本的な技や発展技に積極的に取り組んでいる。

(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

	児童の学びの姿			学習内容・活動
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力	学びに向かう力, 人間性等	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。 ○ 2 技の行い方やポイントを理解している。 ○ 3 技の練習の仕方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1 自己の能力に適した課題を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1 準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 学習の進め方を知る。 2 準備運動をする。 3 場の準備をする。◇ 1 4 既習の学習の振り返りを行う。○ 1 5 目的意識をもつ。 6 課題意識をもつ。○ 2 ○ 3 □ 1 7 学習の振り返りをする。 8 整理運動をする。 9 学習のまとめをする。 10 場の片付けをする。◇ 1
2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりして技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 2 学習カードや掲示物などを活用して課題の解決に向けた活動(練習の場や段階)を選んでいる。 □ 3 観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。 □ 4 技のできばえを振り返り、課題を修正したり新たな課題を見付けたらしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 2 学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ◇ 3 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ◇ 4 場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 学習の流れの確認をする。 2 場の準備をする。 3 準備運動をする。 4 感覚づくりの運動をする。 5 自己の能力に適した技や技の組み合わせに取り組む。 前半：回転系 接点技群 後半：回転系 ほん転技群 巧技系 平均立ち技群 ○ 4 □ 2 3 ◇ 2 3 4 6 整理運動をする。 7 学習の振り返りをする。□ 4 8 学習のまとめをする。 9 場の片付けをする。
6			<ul style="list-style-type: none"> ◇ 5 基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 学習の流れの確認をする。 2 場の準備をする。 3 準備運動をする。 4 感覚づくりの運動をする。 5 自己の能力に適した技や技の組み合わせに取り組む ・回転系 接点技群 ・回転系 ほん転技群 ・巧技系 平均立ち技群 ○ 4 ◇ 5 6 発表会をする。 7 整理運動をする。 8 学習の振り返りをする。 9 学習のまとめをする。 10 場の片付けをする。

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

器械運動における評価規準を具体的な児童の姿で明らかにし、学習過程における指導の順序や重点を明確にして、指導と評価を一体とした手立てを提案する。

5 実証授業について

学年：第6学年 単元名：マット運動

どのような授業を目指すか：課題の解決に向けて試行錯誤を重ね、仲間と共にできる楽しさや喜びを味わうことができる授業

6 研究主題に迫る手立てについて

- 課題を見付け、その解決に向けた学習の展開（高学年での学習の流れを明らかにする。）
- 学習資料・学習カードの工夫（主体的・協働的な学びを促す学習カードを提案する。）

陸上運動系領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の中学年跳の運動（3学年高跳び）の研究を通して得られた成果と課題は以下の通りである。
 〈成果〉

- 本領域における「三つの資質・能力の具体的な学習状況」を明確にすることができた。
- 児童にとって魅力的な教材を開発することができ、主体的な学習の実践につなげることができた。
- 目標設定を行いやすい教材を開発したことで、児童が実際に知識及び技能を高めることができた。

〈課題〉

- 第3学年のゴール（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等に関する内容）についての検討。
- 様々な学級の実態に対応していくために、三つの資質・能力の関連性を考えた指導内容と学習過程の更なる検討。

上記の成果と課題から、今年度陸上運動系領域部会では、第3学年幅跳びにおける

- ① 三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程の提案。
- ② 児童が主体的・協働的に取り組める学習活動の具体的な提案。
- ③ 昨年度の高跳びの学習過程の流れを生かした、幅跳びにおける児童にとって魅力的な教材の開発。を重点として研究していく。

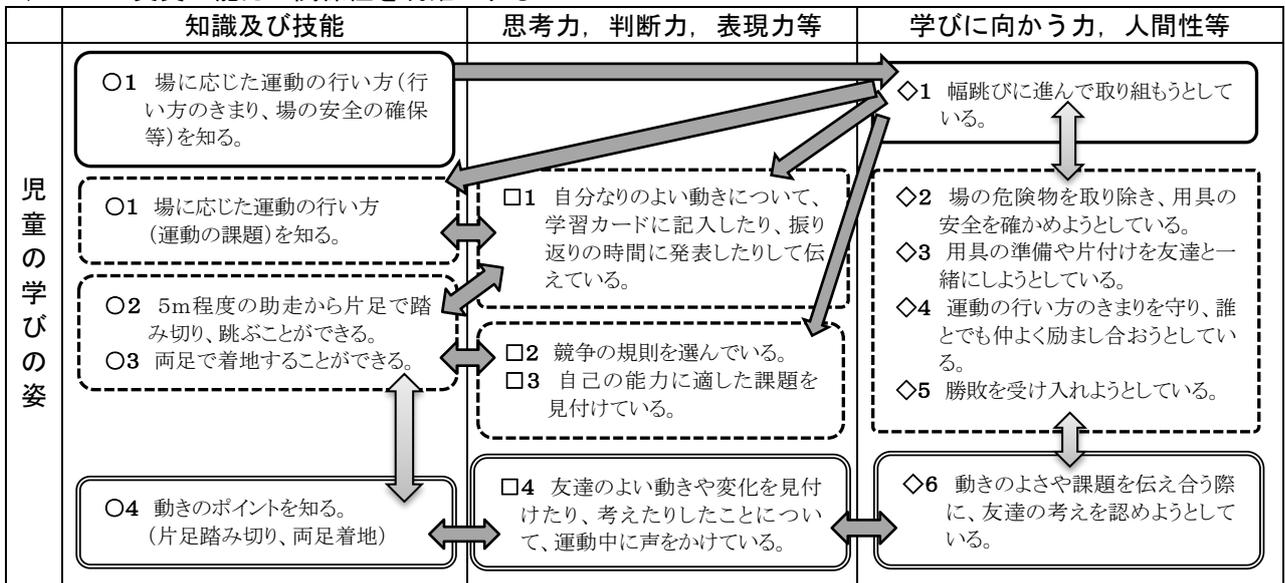
2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

〈三つの資質・能力の具体的な学習状況〉

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 場に応じた運動の行い方（運動の課題、行い方のきまり、場や用具の使い方、場の安全の確保等）を知る。 ○2 5m程度の助走から片足で踏み切り、跳ぶことができる。 ○3 両足で着地することができる。 ○4 動きのポイントを知る。（片足踏み切り、両足着地） 	<ul style="list-style-type: none"> □1 自分なりのよい動きについて、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したりして伝えている。 □2 競争の規則を選んでいる。 □3 自己の能力に適した課題を見付けている。 □4 友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことについて、運動中に声をかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 幅跳びに進んで取り組もうとしている。 ◇2 場の危険物を取り除き、用具の安全を確かめようとしている。 ◇3 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ◇4 運動の行い方のきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ◇5 勝敗を受け入れようとしている。 ◇6 動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする



(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

	児童の学びの姿			学習活動
	知 技	思 判 表	学 人 間	
1	○1 場に応じた運動の行い方(行い方のきまり、場の安全の確保等)を知る。		◇1 幅跳びに進んで取り組もうとしている。	1 単元の流れを知る。○1 2 リズムウォーミングアップ・ジャンプウォーミングアップについて知る。 3 準備の仕方や役割分担について知る。○1 4 幅跳びを行う。(個人) ○1 ◇1 5 整理運動を行う。 6 振り返りをする。 7 片付けをする。○1
2	○1 場に応じた運動の行い方(運動の課題)を知る。 ○2 5m程度の助走から片足で踏み切り、跳ぶことができる。 ○3 両足で着地することができる。	□1 自分なりのよい動きについて、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したりして伝えている。	◇2 場の危険物を取り除き、用具の安全を確かめようとしている。 ◇3 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	1 学習流れとめあてを確認する。 2 リズムウォーミングアップ・ジャンプウォーミングアップを行う。 3 幅跳び競争の仕方を知り、幅跳び競争①を行う。 ◇2 4 振り返り①をする。○1 □1 5 幅跳び競争②を行う。○2 ○3 ◇2 6 整理運動を行う。 7 振り返り②をする。○1 □1 8 片付けをする。◇3
3		□2 競争の規則を選んでいる。 □3 自己の能力に適した課題を見付けている。	◇4 運動の行い方のきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ◇5 勝敗を受け入れようとしている。	1 学習流れとめあてを確認する。 2 リズムウォーミングアップ・ジャンプウォーミングアップを行う。 3 幅跳び競争①を行う。◇4 ◇5 4 振り返り①をする。○1 □2 □3 5 幅跳び競争②を行う。○2 ○3 □2 □3 6 整理運動を行う。 7 振り返り②をする。○1 □3 8 片付けをする。
4	○4 動きのポイントを知る。(片足踏み切り、両足着地)	□4 友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことについて、運動中に声をかけている。	◇6 動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。	1 学習流れとめあてを確認する。 2 リズムウォーミングアップ・ジャンプウォーミングアップを行う。 3 幅跳びの場を選んで行う。□4 ◇6 4 振り返り①をする。 5 幅跳び競争を行う。□4 ◇6 6 整理運動を行う。 7 振り返り②をする。○4 8 片付けをする。

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

実証授業学年(第3学年)における、具体的な評価規準を三つの資質・能力の観点で踏まえ作成する。そして、そのような姿が現れるような運動の場や競争の仕方を開発するとともに、評価や指導の方法を示していく。

5 実証授業について

第3学年 走・跳の運動 「幅跳び」
10月23日(火) 13:45～14:30 荒川区立第一日暮里小学校 授業者 葛城貴代主幹教諭

6 研究主題に迫る手立てについて

- 初めての幅跳び学習との出合わせ方の工夫。
- 運動経験不足を補うウォーミングアップや主運動につながる運動を帯で単元に入れる。
- 跳ぶ感覚を大切にすることから、記録の向上(遠くへ跳ぶ)につなげる学習活動の開発。
- 跳ぶこと自体を楽しめる場の工夫。
- 跳ぶこと自体を楽しんだり、友達のよい動きを見てあこがれや向上心をもったりすることから、「もっと跳びたい」という思いをもたせ、自己の課題発見につなげていく。
- 個から競争へつなげる教材の開発。

ゲーム領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

ゲーム領域部会は、研究主題の設定理由を受け、単元ごとに三つの資質・能力をバランスよく身に付けていくことが大切だと考えた。

今年度は、ゲームの特性を明らかにし、児童に特性を味わわせることに重点を置いた。はじめの規則をより簡単にし、児童の思いや考えをもとに規則を工夫することで、児童が夢中になるゲームを作っていけると考えた。そのために、振り返りの時間を大切にしていく。また、教師の発問を精選することで、児童の「思考力、判断力、表現力等」を育成していく。

2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 ゲームの行い方を理解している。 ○ 2 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きについて理解している。 ○ 3 ゲームを楽しむための基本的な動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1 易しいゲームを行うためにゲームの規則を選んでいる。 □ 2 ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を選んでいる。 □ 3 ゲームの規則や簡単な作戦についての自分の考えを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1 ゲームに進んで取り組もうとしている。 ◇ 2 勝敗の結果を受け入れ、誰とでも仲よくゲームに取り組もうとしている。 ◇ 3 友達の考えを認め、受け入れようとしている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を明らかにした上で、その学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする □ …今もっている力で楽しむ ◇ …工夫して楽しむ

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○ 1 ゲームの行い方を理解している。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○ 2 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きについて理解している。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">○ 3 ゲームを楽しむための基本的な動きができる。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">□ 1 易しいゲームを行うためにゲームの規則を選んでいる。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">□ 2 ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を選んでいる。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">□ 3 ゲームの規則や簡単な作戦についての自分の考えを友達に伝えている。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◇ 1 ゲームに進んで取り組もうとしている。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◇ 2 勝敗の結果を受け入れ、誰とでも仲よくゲームに取り組もうとしている。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇ 3 友達の考えを認め、受け入れようとしている。</div>

(2) 三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方

	児童の学びの姿			学習活動
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
1	○ 1 ゲームの行い方を理解している。		◇ 1 ゲームに進んで取り組もうとしている。 ◇ 2 勝敗の結果を受け入れ、誰とでも仲よくゲームに取り組もうとしている。	1 準備運動 2 ゲームにつながる運動 3 規則の説明 4 ゲーム1 ◇ 1・2 5 振り返り1 (オリエンテーション) ○ 1 6 ゲーム2 ◇ 1・2 7 整理運動 8 振り返り2
2		□ 1 易しいゲームを行うためにゲームの規則を選んでいる。 □ 3 ゲームの規則や簡単な作戦についての自分の考えを友達に伝えている。	◇ 3 友達の考えを認め、受け入れようとしている。	1 準備運動 2 ゲームにつながる運動 3 ゲーム1 4 振り返り1 □ 1・◇ 3 5 ゲーム2 6 整理運動 7 振り返り2 □ 1・◇ 3
3	○ 2 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きについて理解している。	□ 2 ゲームの型の特徴に合った攻め方を知っている。	◇ 3 友達の考えを認め、受け入れようとしている。	1 準備運動 2 ゲームにつながる運動 3 ゲーム1 ○ 2 4 振り返り1 □ 2・◇ 3 5 ゲーム2 ○ 2 6 整理運動 7 振り返り2 □ 2・◇ 3
4				
5	○ 3 ゲームを楽しむための基本的な動きができる。	□ 2 簡単な作戦を選んでいる。 □ 3 簡単な作戦についての自分の考えを友達に伝えている。	◇ 3 友達の考えを認め、受け入れようとしている。	1 準備運動 2 ゲームにつながる運動 3 ゲーム1 ○ 3 4 振り返り1 □ 2・3・◇ 3 5 ゲーム2 ○ 3 6 整理運動 7 振り返り2 □ 2・3・◇ 3
6				

4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

研究の視点1「児童の学びの姿」、視点2「学習過程」を踏まえて評価規準を作成し、意図的、計画的に評価する。また、一単位時間の評価については、児童の状況を無理なく的確に把握できるように、評価場面と評価方法を考慮する。「いつ、何を、どのように評価するのか」を決め、児童への指導に生かすことができるようにする。

5 実証授業について

第4学年 ベースボール型ゲーム 「マイ ベース(仮)」
10月18日(木) 三鷹市立第六小学校 授業者：吉田 直崇 主任教諭

6 研究主題に迫る手立てについて

- (1) ゲーム領域、ボール運動領域の6年間を見通した系統的な年間指導計画の作成
- (2) ベースボール型ゲームの特性を味わわせるために、より簡単にした「はじめの規則」の設定
- (3) 児童の思いや考えに寄り添った規則の工夫例や、より夢中になるゲームにするための規則の工夫例の作成

ボール運動領域部会

1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

児童が発達段階に応じた課題を主体的・協働的に解決し、身に付けた力を次の（あるいは年次を越えた）単元に生かし、三つの資質・能力をバランスよく育むためには、学校や児童の実態に応じて、学習内容が系統的な「年間指導計画」を作成する必要がある。

児童にボール運動の特性である「攻防することの楽しさ」を味わわせる中で、資質・能力を育ていくために、「何を、どのように学ばせるか」を意図的、計画的に「単元計画」「1 単位時間の流れ」の中に位置付ける必要がある。以上のことから学習過程を「年間指導計画」「単元計画」「1 単位時間」の大きく三つと捉え（年間指導計画についてはゲーム領域部会との協働）、どのように資質・能力を育ていくかを整理していく。

また、昨年度までの研究で明らかになったボール運動で育む資質・能力の中核である「思考力・判断力・表現力等」の中の「チームの特徴に応じた作戦」における指導の三つの視点（「動き方」「ボール操作」「役割分担」）から、その指導と評価の方法が、ベースボール型の学習にどのように生かすことができるのか、「はじめのルールの設定／ルールの推移と資質・能力との関係性と系統性」についても整理することで、他の型との関係性や系統性についても明らかにしていく。

2 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）」

＜三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	① ティーボールの行い方を理解している。 ② 止まったボールをバットでフェアグラウンド内に打つことができる。 ③ 打球方向に移動して捕球し、味方に向かって投げることができる。 ④ 守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。	① みんながベースボール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ② 一人一人のよさから、チームに合った作戦を選んだり、立てたりしている。 ③ 作戦カードや記録カードから作戦についてふり返り、よかったことを伝え合っている。	① 集団対集団で競い合うための練習やゲームに積極的に取り組んでいる。 ② ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしている。 ③ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たしたり、用具の安全を保持したりすることに気を配っている。 ④ 勝敗を受け入れ、ゲームの前後に挨拶と握手をしている。 ⑤ 仲間のよさを認め合い、みんながゲームの楽しさに触れることができるように、声を掛けたり、協力をしたりしている。

3 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

(1) 三つの資質・能力の関係性を明確にする

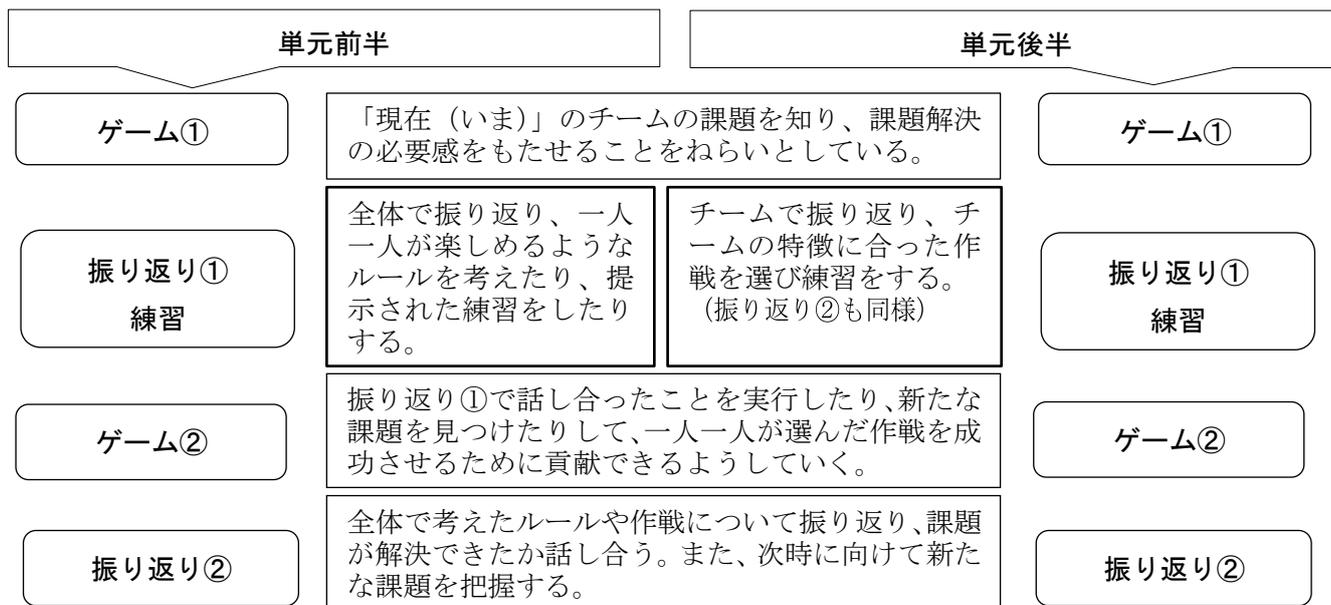
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
児童の学びの姿	① 行い方の理解 ② 打つ ③ 捕る、投げる ④ 守備の隊形	① ルールの工夫 ② 作戦を選ぶ ② 作戦を立てる ③ 伝え合い	① 積極的な取組 ② ルールやマナー ③ 分担された役割、安全の保持 ④ 勝敗を受け入れる ⑤ 認め合い、協力

(2) 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程

①単元指導計画

	児童の学びの姿			学習活動
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
1	①行い方の理解		◇積極性 ◇ルール、マナー ◇役割/、安全 ◇勝敗の受け入れ ◇認め合い	1 準備運動 2 ゲームにつながる運動① 3 ルール説明① 4 ゲーム ◇◇◇ 5 振り返り 1 6 ゲーム 2 7 整理運動 8 振り返り 2
2		①ルールの工夫		1 準備運動 2 ゲームにつながる運動 3 ゲーム 1 ◇◇ 4 振り返り 1 ① 5 ゲーム 2 ②③④ 6 整理運動 7 振り返り ①
3	②打つ ③捕る、投げる ④守備の隊形			
4		②作戦を選ぶ		1 準備運動 2 ゲーム 1 ②③④ 3 振り返り 1 ②③ 4 チームタイム②③ (作戦の修正、作戦に応じた練習)
5				
6	④守備の隊形	③伝え合い		5 ゲーム 2 ②③④ 6 整理運動 7 振り返り ②③

② 1 単位時間の流れ



4 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

研究の視点1・2で触れた「学習状況」と「関係性」から、ボール運動における評価規準を具体的な児童の姿で明らかにするとともに、学習過程における指導の順序や重点を明確にして、指導と評価を一体とした手立てを提案する。特に「運動が苦手な児童への配慮の例」を参考に作成していく。

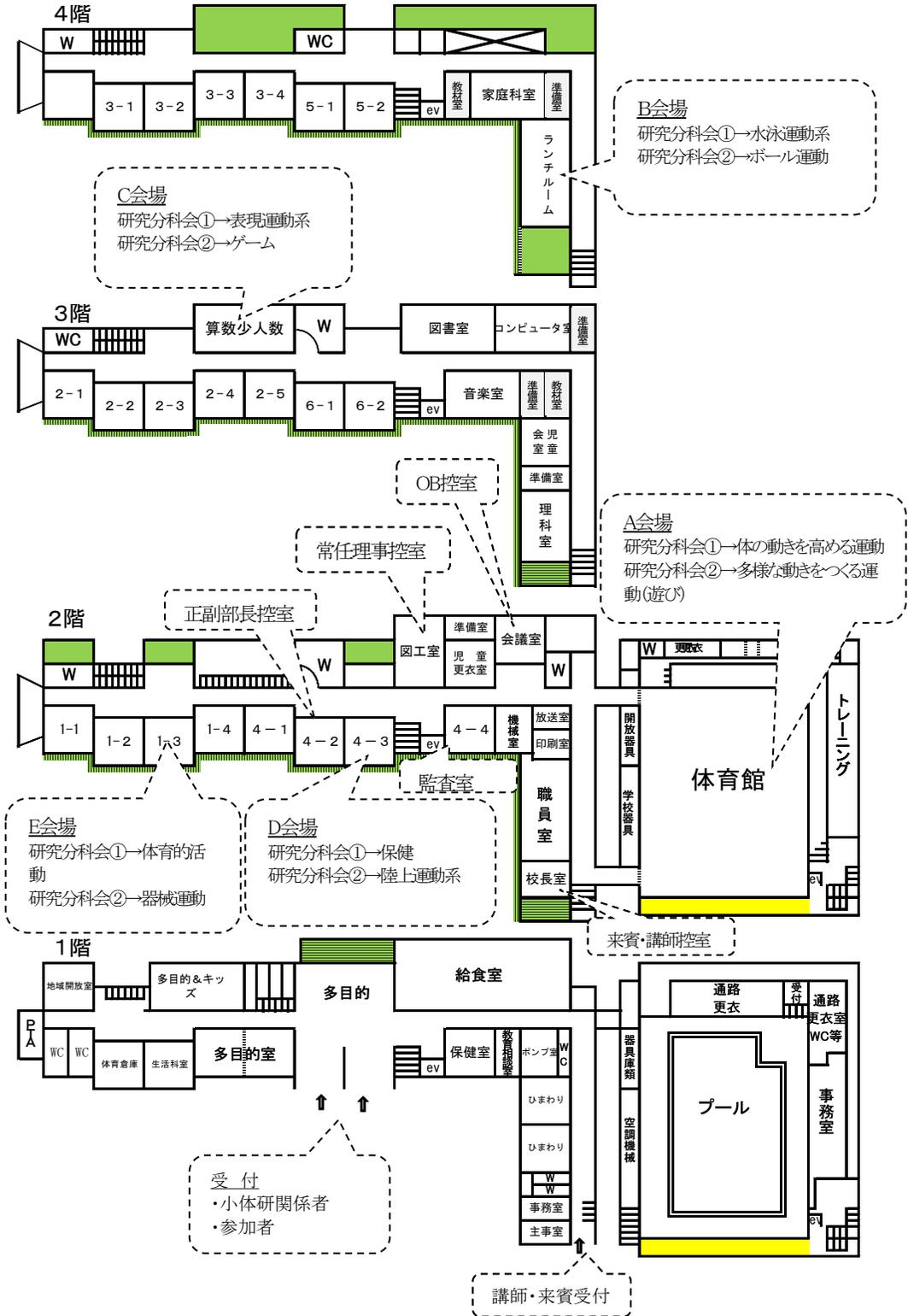
5 実証授業について

第五学年 ベースボール型「ティーボール」
 9月21日(金) 狛江市立緑野小学校 授業者 平井政知 主任教諭

6 研究主題に迫る手立てについて

- ・ゲーム領域、ボール運動領域の6年間を見通した系統的な年間指導計画の作成
- ・ベースボール型の特性を味わう「はじめのルール」、教材教具の工夫
- ・ベースボール型における「チームの特徴に応じた作戦」指導の三つの視点
- ・「ルールの推移」と「三つの資質・能力」との関係性や順序性

平成30年度東京都小学校体育研究会 夏季合同研究会 会場案内



〈会場の利用について〉

1 2部構成の研究分科会について

(1) 研究分科会は、10領域に分かれて、下記の会場で実施します。

分科会	会場	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
		体育館	ランチルーム	算数少人数室	4年3組教室	1年3組教室
研究分科会 ①		体の動きを 高める運動	水泳運動系	表現運動系	保健	体育的活動
研究分科会 ②		多様な動きを つくる運動 (遊び)	ボール運動	ゲーム	陸上運動系	器械運動系

(2) 研究分科会①は、全体会終了後に各分科会会場に移動してから開始します。

(3) 昼食終了後は、研究分科会②の各分科会会場に移動してください。各分科会会場へは、13時30分までにお集まりください。

(4) 研究分科会②終了後は、各会場の片付け等にご協力ください。

2 昼食について

(1) 校内での昼食は、体育館を除く各分科会会場をご利用ください。
体育館は昼食の場所として利用できません。

(2) ごみは、各自でお持ち帰りください。

研究会の日程

1 全体会（会場・体育館）

8時45分～9時25分

(1) 開会の言葉

東京都小学校体育研究会副会長 矢部 崇

(2) 会長挨拶

東京都小学校体育研究会会長 中村 豊

(3) 来賓挨拶

教育庁指導部体育健康教育担当課長 堀川 勝史 様
江東区教育委員会教育長 岩佐 哲男 様
NPO法人 健康・体育活性化センター理事長 藤崎 敬 様

(4) 講師・来賓紹介

東京都小学校体育連盟副理事長 土肥 和久

(5) 研究経過報告

東京都小学校体育研究会調査研究部長 本田 幸彦

2 研究分科会①

9時40分～12時30分

領 域 名	会 場
体の動きを高める運動	体育館 (2階)
水泳運動系	ランチルーム (4階)
表現運動系	算数少人数室 (3階)
保健	4年3組教室 (2階)
体育的活動	1年3組教室 (2階)

※分科会の進行

(1) 提 案

(2) 研究協議

(3) 指導・助言

講師 東京都及び各区市町村の
統括指導主事・指導主事・副校長

3 昼 食

12時30分～13時30分

4 研究分科会②

13時30分～16時20分

領 域 名	会 場
多様な動きをつくる運動（遊び）	体育館 (2階)
器械運動系	1年3組教室 (2階)
陸上運動系	4年3組教室 (2階)
ゲーム	算数少人数室 (3階)
ボール運動	ランチルーム (4階)

※分科会の進行

(1) 提 案

(2) 研究協議

(3) 指導・助言

講師 東京都及び各区市町村の
統括指導主事・指導主事・副校長

5 全体会（放送）

16時20分～16時30分

(1) 閉会の言葉

東京都小学校体育研究会副会長 野村 友彦

(2) 事務連絡